



安息日——自由の日

暗唱 聖句

「また彼らに言われた、『安息日は人のためにあるもので、人が安息日のためにあるのではない』（マルコ 2：27、口語訳）

「そして更に言われた。『安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない』（マルコ 2：27、新共同訳）

今週の 聖句

出エジプト記 16：16～18、出エジプト記 20：8～11、
申命記 5：12～15、マタイ 12：9～13、レビ記 25：1～7

安息日 午後 7/13

今週のテーマ

神は、創造週の最後の行為として安息日を創設されました。第七日に神は休まれただけでなく、この世界のあるべき姿の不可欠な部分として休息を生み出されたのだ、と言われてきました。安息日は、いかに私たち人間が神や人間同士と交わるために創造されたのかを実際に示すものでした。

ですから、(神の民のための御計画における掟の一つとして)安息日が新しいイスラエル国家の設立の早い段階で登場することは、驚くに値しません。それはヘブライ人の生活の中で極めて重要な役割を担うためでした。

私たちが安息日について話すとき、しばしばその会話は、安息日をどう守るかということにすぐ移ります。私たちがすべきでないことは何か、といったことです。こういう疑問がいかに重要であったとしても、私たちは、神の恵みと供給の象徴として、安息日がこの世界と神の民の生活の中で果たすべき不可欠な役割を理解する必要があります。

イエスが言われたように、第七日安息日は人間のために生み出されました。私たちが本当に「安息日を覚える」とき、それは日々私たちを変え、イエスが行動で示されたように、ほかの人たちを祝福する手段にもなりうるのです。

(虐げられた神の民を苦しめう) 何世代にもわたる奴隷状態と社会的零落のち、神は新たに解放されたイスラエルの人々を高く上げようとして、より良い生き方を彼らに示し、新しい社会を最善に秩序づけるための律法をお与えになりました。しかし、この過程の最初の部分の一つは、実際的かつ教育的な実物教訓という形でもたらされました。

荒野野を放浪した丸40年の間続いたこの生活リズム、神の供給と無我の目に見える証拠は、イスラエル社会の文化の一部になるべきものでした。それは、イスラエル人の宿営地の周りに毎朝あらわれた食べ物、マナという形でもたらされました。

問1 出エジプト記16:16～18を読んでください。これらの節で強調されている各自の具体的な対応策にはどのような意味があると、あなたは思いますか。

パウロはⅡコリント8:10～15で、クリスチャンがいかに与えるべきかという例としてこの物語を引き合いに出しています——「あなたがたの現在のゆとりが彼らの欠乏を補えば、いつか彼らのゆとりもあなたがたの欠乏を補うことになり、こうして釣り合いがとれるのです」(Ⅱコリ8:14)。

イスラエルの人々や私たちにとっての教訓は、神が御自分の民や被造物に十分な供給をしてこられたということでした。もし私たちが自分に必要なものだけを取り、余った分はほかの人に分ける心構えでいるなら、すべての人が配慮され、供給されます。その日に必要な分だけを取るという行為は、翌日にはさらなるものがあると信じるのが求められます。奴隷であったイスラエルのように、虐げられた人たちは自分自身が生き残ることに目を向けがちですが、神は彼らに、信頼する生き方、気前の良い生き方、分かち合う生き方を示したいと望まれました。

しかし、この行為にはもう一つの側面、もっと注目に値する側面がありました。金曜日ごとに二倍のマナが地上にあらわれ、人々はその日(だけ)、安息日に備えて追加のマナを集めなければならなかったのです。安息日のための特別な供給は、彼らが自分のあらゆる必要に関して主を信頼することを学ぶさらなる機会となりました。この追加分のマナ、つまり神の側における恵みの行為によって、彼らは、神が第七日安息日に約束された休息をさらに享受することができたのでした。

◆ 神が安息日に提供してくださるものをさらに享受するために、私たちは金曜日にどのようなことができますか。

問2 出エジプト記20：8～11と申命記5：12～15を読んでください。これら二つの形の第四条は、どのように補完し合っていますか。

心に留めることは、神が御自分の民と再構築しようとしておられる関係、つまり神が創造主であり、贖い主であるという事実を軸とする関係の重要な部分です。〔神の〕双方の役割は、第四条の二つの形の中にあらわれており、それゆえ安息日とその順守に深くつながっています。

多くの偽りの神々によって支配されていた土地を出たとき、イスラエルの人々は、創造主である真の神の役割を思い出す必要がありました。安息日はそのための重要な方法であり、金曜日に追加のマナが供給されるという週ごとの周期（神の創造力の絶好の実例）によって、一層意義深いものとなりました。出エジプト記20章の第四条では、創造主である神が最もはっきりと明らかにされています。

対照的に、申命記5章の第四条は、イエスラエルの救出、贖い、救いに焦点を合わせています。これは、イスラエルの人々が定期的に繰り返す語りべき物語でした。彼らは、とりわけ安息日ごとに、その物語に改めて触れることができました。彼らの最初の物語は、エジプトにおける奴隷状態からの実際的、肉体的救出でしたが、神と神の救いに対する彼らの理解が深まるにつれて、安息日は彼らの霊的救いの週ごとの象徴、祝いにもなりました。

安息日に対するこれら二つの動機は、神と神の民の関係を回復することに関わるものでした——「また、わたしは、彼らにわたしの安息日を与えた。これは、わたしと彼らとの間のしるしとなり、わたしが彼らを聖別する主であることを、彼らが知るためであった」（エゼ20：12）。そしてすでに触れたように、これはこのグループの人たち〔イスラエルの人々〕だけに関することではありませんでした。このような関係の基礎の上に、彼らは新しい種類の社会、つまり外部の人に親切であり、より広い世界にとっての祝福となる社会を築かねばならなかったのです。

「そのために、あなたの神、主は安息日を守るよう命じられたのである」（申5：15）。私たちの創造と救いの双方を心に留め、祝う方法としての安息日を守ることによって、私たちは、神との関係においてのみならず、周囲の人たちとの関係においても成長し続けることができます。神が私たちに対して恵み深いのですから、私たちは他者に対して恵み深くあらねばなりません。

◆ 安息日をどのように守ることで、私たちは、より良く、より優しく、より思いやりのある憐れみ深い民になれますか。

出エジプト記 20 章と申命記 5 章の十戒にぞっと目を通して明らかなの一つは、第四条が群を抜いて最も詳細だということです。いくつかの掟がわずか三つの言葉で記録されているのに（ヘブライ語では、二つの言葉だけで表現できる掟もあります）、第四条はスペースを割いて、だれが、どのように、なぜ安息日を心に留めるのかを説明しています。

問3 出エジプト記 20：8～11 を読んでください。奴隷や寄留者や家畜について、第四条は何と言っていますか。それはどういう意味ですか。

安息日の詳細さの中で注目すべきは、他者に目が向けられていることです。〔医者であり、神学者でもある〕シグブ・K・トンスタッドは、この種の掟は世界のあらゆる文化の中で独特である、と論じています。彼の説明によれば、安息日の掟は、「上意下達ではなく、下意上達を優先しており、社会の中で最も弱く、傷つきやすい者たちを第一に考慮している。休息を最も必要とする者たち（奴隷、寄留する人々、家畜）が、特に指摘されている。第七日の休息の中に、恵まれない者たちは（口の利けない動物さえも）味方を見つけるのである」（『第七日の失われた意味』126、127 ページ、英文）。

この掟は、安息日がすべての人によって喜ばれるべき日であると訴えることに重点を置いています。安息日という観点から見ると、私たちはみな平等です。週の間、もしあなたが雇い主だとしても、安息日に従業員を働かせる権限はあなたにありません。なぜなら、神が彼らにも休息の日をお与えになったからです。安息日以外の日に、もしあなたが従業員で（あるいは、奴隷でさえ）あったとしても、安息日は、あなたが神によって平等に創造され、贖われたということ、また神があなたに、日頃の義務とは異なる形で安息日を祝うように招いておられることを思い出させてくれます。安息日の順守者以外の人たち——「あなたの町の門の中に寄留する人々」（出 20：10）——でさえ、安息日から恩恵を受けるべきです。

このような考えは、隷属と社会的疎外の経験の中から出てきたばかりのイスラエルの人々にとって、顕著な視点の変化でした。今や彼らが新しい土地に定着するからには、彼らがかつての抑圧者の習慣を採用することを、神は望んでおられませんでした。彼らの社会のためのきめ細かい律法を与えるとともに、神は彼らに（実際には、私たち全員に）、私たちがみな神の前ではいかに平等であるかを週ごとに（説得力のある形で）思い出させるものをお与えくださったのです。

◆ 地域社会において、あなたが安息日を守ることによって恩恵を受けることは、地域の人が安息日を共有することにつながりますか

安息日とその順守に対する当初の展望は、広範かつ包括的なものでしたが、イエスが地球に来られるまでに、安息日は多くの宗教指導者によってまったく異なるものになっていました。自由と平等の日ではなく、人間の伝統的な規則と制約の日になっていたのです。イエスは在世当時、そのような考え方が人々に押しつけられるとき、とりわけ異を唱えられました。

安息日に多くのいやしを行うことで、イエスが意義深くも異を唱えられたというのは、なんと興味深いことでしょう。ほかの日ではなく、安息日にイエスが意図的にこのような奇跡を行われたのは、安息日のあるべき姿に関して重要な何かを行動で示すためであったようです。イエスはそのような物語の中で、いやしは安息日にふさわしいことだ、としばしば口にされており、ファリサイ派の人々はイエスのその言葉を、彼を殺す計画を進める口実としてしばしば用いました。

問4 マタイ 12:9～13、マルコ 1:21～26、3:1～6、ヨハネ 9:1～16 におけるイエスの安息日のいやしに関する物語を読んでください。これらの物語の中で、あなたが最も重要だと思うことは何ですか。

安息日は重要であると、イエスは明言なさいました。私たちは安息日の時間の周りに境界線を敷き、それを特別なものとし、週ごとのこの時間を、私たちと神との関係、家族や教会との関係、また地域社会との関係を深める機会にする必要があります。しかし安息日の順守は、私たちだけに関する自己本位なものになるべきではありません。「安息日に良いことをするのは、正しいことである」(マタ 12:12、口語訳) と、イエスは言われました。

多くの教会員は、他者を気遣うために良いことをたくさんしています。しかし私たちの多くは、助けるためにもっと多くのことをすべきだとも感じています。私たちは、傷ついている人、虐げられた人、忘れ去られた人たちを神が気にかけておられることを知っていますが、私たちが気にかけるべきです。私たちは通常の働きを続けないように命じられ、1週間の重圧から解放されているのですから、安息日には、正しくかつ積極的な安息日順守の方法の一つとして、他者に対するこのような関心に集中するための時間を与えられています。「第四条によれば、安息日は休息と宗教的礼拝のためにささげられた。あらゆる世俗的な仕事は休止すべきだが、憐れみと慈善の働きは、主のその目的にかなっていた。……苦しむ人の苦しみを和らげ、悲しむ人に慰めを与えることは、神の聖なる日に栄光を帰す愛の働きである」(『福祉伝道』77 ページ、英文)。

◆ 他者の利益のために、あなたは安息日にどのようなことをしますか。

すでに触れたように、安息日はイスラエル民族の生活サイクルに深く染み込んだ部分でした。しかし安息日の原則は、単に週のうちの1日に関係するものではなかったのです。その原則には、7年ごとの特別な休息も含まれており、それは7年を7倍したあとのヨベルの年、つまり50年ごとの年に頂点を迎えました。

問5 レビ記25:1～7を読んでください。この命令のどういうところが優れていますか。どうすれば、この命令をあなたの生活や仕事に取り入れられますか。

安息の年に、農地は1年間休耕地とされました。それは、土地を管理するうえでの優れた行為であり、農業慣行としてのその知恵は、広く認められています。

7年目の年は、奴隷たちにとっても重要でした(出21:1～11参照)。イスラエル人のだれであれ、身売りして奴隷になるほど負債を抱えてしまった場合、彼らは7年目に解放されねばなりませんでした。同様に、未払いの負債は7年目の終わりに免除されました(申15:1～11参照)

荒れ野で神がイスラエルの人々に供給されたマナのように、1シーズンの間、作物を植えないというのは、神がその前年に十分なものを与え、また安息の年に土地が自ずと生み出すもので十分に養ってくださることを信頼する行為でした。同様に、奴隷を解放し、負債を免除することは、憐れみの行為であるとともに、私たちが必要なものを与えてくださる神の力を信頼する行為でもありました。ある意味において人々は、自分自身を養うために他者を虐げるべきでないことを学ぶ必要があったのです。

安息日の原則と様式は、イスラエルの社会全体と密接に結びつけられねばなりませんでした。同じように、現代における安息日順守も、私たちのほかのすべての日を変える霊的訓練になるべきです。実際的な意味において安息日は、まず神の国を求めよ、というイエスの命令を実行する一つの方法なのです——「あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことをご存じである。……そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる」(マタ6:32、33)。

◆ 安息日順守は、あなたの1週間のほかの日にどんな影響を与えるべきですか。結局のところ、もしあなたが日曜日から金曜日まで、欲深く、わがままで、思いやりがないとしたら、安息日にそのいずれでもないということは、重要でしょうか(つまり、週のほかの日にそのようでありながら、安息日にそうでないということは、本当に可能でしょうか)。

参考資料として、『人類のあけぼの』第26章「紅海からシナイへ」と『各時代の希望』第29章「安息日」を読んでください。

「イエスは、苦しんでいる者を救う行為は、安息日の律法にかなっていると彼らにお述べになった。それは、苦しんでいる人間に奉仕するためにいつも天と地との間をのぼりくだりしている神の天使たちの働きに一致していた。……

人間にもまた、この日になすべき働きがある。生活上の必要に備え、病人を世話し、困っている人々の欠乏を満たさねばならない。安息日に、苦しみをやわらげることをおこたる者は罪をまぬかれない。神の聖なる休日は、人のためにつくられたもので、憐れみの行為は、安息日の意図に完全に一致している。神は、ご自分の被造物が安息日でもほかの日でも、苦しみをやわらげられるものなら、1時間でも苦しむことをお望みにならない」（『希望への光』769ページ、『各時代の希望』上巻251、252ページ）。

話し合いのための質問

- ① 神に対するあなたの信頼の証拠として、あなたは安息日にどのような体験をしたことがありますか。神に対するあなたの信頼の応答として、神が何かを与えてくださったというマナのような体験を、あなたは人生の中でしたことがありますか。もしあれば、安息日学校のクラスでそれを分かち合い、あなたが学んだことを語ってください。
- ② 出エジプト記20:8～11と申命記5:12～15にある第四条で触れたように、神は安息日の異なる側面を強調なさいました。あなたが最も感謝している安息日の側面は、どちらですか。
- ③ 安息日のクラスで、あるいは個々に、あなたの地域社会において安息日の祝福や恩恵を分かち合える方法をいろいろ考えてみてください。

まとめ

神は、天地創造と贖いを心に留める方法として安息日を与えてくださいましたが、この日には実際的な恩恵もあります。安息日は、神が私たちのために与えてくださることを信じるように教えますし、平等を実践するようにも教えます。また、安息日は私たちのあらゆる関係を変える霊的訓練になりえます。イエスは、病人をいやし、困窮している人に利益をもたらす日として安息日を強調することで、この日に対する彼の理想を行動で示されました。